



なないろ

「心」を育てる！

(幸せをめざして PART 33)

所長 小野 真

作業のやり方が上手になったかについては、できた製品の数やできばえなどである程度わかります。身体が育ったかについても身長伸びや体重の増加でわかります。どちらも数値化できるので客観的でわかり易いと思います。

しかし、「心」が育っているか、また、言い方を変えれば「豊か」になっているかどうかについては目に見えない部分が多く、数値化することも困難といえます。

私は、心の「豊かさ」が育っているかについて、次の2つのものさしで見極めることができると考えています。

1つ目は「心は見えませんが、心遣いは目に見えます。」

例えば、作業場の掲示物がはがれているとします。気づいた瞬間に画鋲を取りに行き直すことができること。また、作業場や食堂にゴミや埃が落ちているのを見つけたらすぐに拾うことができること。仲間が(作業中一人で重い荷物を持っていてなかなか運べないときなど)困っているとき手伝ってやることなどです。これらの行動ができるかできないかで心の有り様がわかります。

2つ目は、「心は見えませんが、言葉遣いは耳に聞こえます。」

毎週月曜日の朝放送で朝礼をしています。今週は、利用者みなさんと約束したことがあります。「虹の家」では、「なにやっているんだ」「きもい」「ばか」など相手を傷つけるような悪い言葉は一切禁止することにしました。こんな言葉を利用者やお家の人そして、職員に言うようでは「心」が「豊か」とは言えません。

利用者みなさんの好きな言葉を聞いてみました。殆どが、「ありがとうございます」「おはようございます」「お疲れ様」「がんばったね」と言った、あいさつで使われる言葉でした。このような言葉を沢山集めて、以前「ふわふわ言葉」として掲示したことがあります。今では、事業所の多くの場面で耳にすることができるようになりました。

このような行動や言葉をたくさん見聞きできたかによって「心」が「豊か」になっているかどうかの指針となるのではないのでしょうか。

ふわふわ言葉をかけてもらった人が他の人にふわふわ言葉を渡すという、「豊かな心」の連鎖が点から面へ、そして大きなうねりとなって「虹の家」に留まらず地域全体に浸透して行けばと願っています。

保護者、地域、関係機関等みなさんがいればこそその「虹の家」の取り組みです。利用者みなさんに「豊かな心」を問う前に、私たち職員が心を磨いて行かなければと肝に命じています。

これからもよろしく願いたします。



余暇活動新発田イオンへ行ってきました。

生活介護の皆さん 7月15日



イオンの醤油ラーメン最高に美味しいね。

